

令和3年度 社会福祉法人 三彩の里 事業報告承認の件

令和3年度社会福祉法人 三彩の里 本部 事業報告

事業名	開催日	場所	人数	内容
1. 会務の運営				
(1) 監査	3年 5.24	会議室	4	1. 令和2年度事業執行状況・会計について
(2) 理事会 (第1回)	3年 5.29	会議室	7	1. 令和2年度事業報告について 2. 令和2年度収支決算について 3. 評議員選任・解任選定の件 4. 評議員候補者選定の件 5. 定時評議員会招集の件 報告事項；監事監査報告
(第2回)	3年 6.19	書面にて	8	1. 理事長選定の件
(第3回)	4年 3.19	会議室	7	1. 令和4年度事業計画について 2. 令和4年度三彩の里会計当初予算について 3. 給与規定の一部改正の件 4. 障害者支援施設三彩の里 運営規定の一部改正の件 報告事項；長崎県・大村市指導監査の実施について
(3) 評議員選 任・解任委員会	3年 5.29	会議室	4	1. 評議員選任・解任の件
(4) 評議員会 (第1回)	3年 6.19	会議室	7	1. 令和2年度社会福祉法人三彩の里会計決算承認の件 2. 理事、監事の選任の件 報告事項 ① 監事監査報告 ② 令和2年度事業報告について ③ 社会福祉充実計画について
2. 研修会・ 委員会等への 参加	3年 4.16 5.12 5.13 5.19	大村市 長崎市 長崎市 大村市		大村市ネットワーク協議会 共同受注センター工賃向上フォーラム 長崎県知事伝達式 大村市障害者自立支援協議会

	6.17	WEB	長崎県 Selp 協代表者会
	6.24	WEB	日本セルフセンター総会
	6.27	大村市	ハートパルまつり
	8.16	大村市	パラリンピック大村採火式
	9.24	WEB	日本財団 障がい者就労支援フォーラム
	10.21	WEB	専門研修会
	10.28	WEB	全国 SELP 大会 WEBin 北海道
	11.14	大村市	農福マルシェ Omura
	11.19	大村市	大村市ネットワーク協議会、障害福祉課と協議
	11.22	WEB	共同受注センター工賃向上セミナー
	1.28	WEB	九州社会就労センター協議会課題別専門勉強会
	2.1	WEB	全国社会就労センター長研修会
	3.8	WEB	長崎県身体障害児者協代表者会
	3.14	WEB	工賃向上アドバイザー研修会
	3.16	WEB	長崎県 Selp 協代表者会
	3.17	WEB	処遇改善セミナー
	3.18	WEB	スキルアップセミナー
	3.24	大村市	大村市制 80 周年記念式典

令和3年度 生活介護事業報告

【生活支援面】

1、個別ニーズに応じた日常生活支援について

- ・生活介護利用者の方は年々、身体レベルが重度になり、様々な問題等が起こっている。その都度で話し合いの場を設け対応した。
- ・各関係機関等と連携し、随時支援状況の評価・検討を行ないサービス利用計画等の作成に深く関与した。
- ・サービス利用等計画書に基づき、アセスメントを実施し、利用者のニーズに応じた個別支援計画を立案し、計画に沿った支援を行った。個別支援計画の期間は6ヶ月とし、見直しを行った。
- ・個別の移動状況に応じた支援を行いながら、残存能力の維持に繋がるようリハビリテーションやレクリエーションの声掛けを行った。
- ・また利用者それぞれの能力を活かしながら出来ない部分を補う形での入浴介助や洗濯、居室清掃などの支援を行った。

2、機能回復訓練について

- ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、理学療法士に来所して頂く事が困難となった。その為、事前に頂いていた資料を基にリハビリを行い、残存能力の維持や筋力低下等にならぬように努めた。

3、介護について

- ・担当職員が同じレベルの介護・支援が行えるよう、サービス利用担当者会議、ケア会議など実施し職員間の共通認識を図った。

4、社会資源の活用について

- ・県内各市町の情報収集及び各関係機関との連携を継続的に行った。季節感を感じられるイベントとして「花見」「納涼祭」「餅つき」などを実施し、近隣の公園の散策等も行った。
- ・自力で外出を行う事が困難な方に対し、コロナウイルスの状況を見て、1~2か月に1度のペースで、散髪支援を依頼し施設の方で実施して頂いた。



「花見」



「納涼祭」



「餅つき」

5、作業訓練について

- ・生活介護利用者の生産活動はリハビリを主な目的として行い、作ることの喜びや達成感により作業に対する意欲が高められた。

今後も利用者が意欲的に生産活動に取り組める環境を整え、精神面、肉体面の向上に繋がるよう努めた。

【保健衛生面】 令和3年度事業報告書

1. 日常の健康管理

- 服薬管理では高齢化、目が見えにくい、知的障害、精神障害で個人管理ができなくなり、スタッフ管理になった利用者も増え、19名を保健室で管理し、1週間分セットすると自己管理ができる利用者は7名。居室での服薬後も空袋をいれてもらい確認し服薬できている。また、新しい入所者も精神面がある方はスタッフ管理をおこなっている。

グループホームで服薬されている方は、1週間セットして、世話人さんに服薬確認をしてもらった。

- 体重の増減において、一年間に5kg以上の増加者 1名。減少者5名であった。増加者に置いては、特に新型コロナウイルス感染症拡大予防で自粛を行ったためとは特に関係性はなかった。減少者に置いては精神的な方が多かった。
 - 高血圧で内服中の利用者(21名)自分で計る利用者は休み時間を利用し保健室で測定記録を行い、受診時に血圧ノートを持参し、薬のコントロールを行っている。又、曜日ごとに指定し血圧測定に来るように指導を行い、なんらかの理由で保健室に来ることができない利用者は再度声掛けを行っている。
 - 皮膚疾患の利用者は、夏場は特に水虫等が多く、入浴時は、趾間も良く洗うよう指導をした。冬場の皮膚乾燥による皮膚トラブルも皮膚科に相談したり、手荒れがある利用者には乾燥する時期前から、皮膚科受診し軟膏を塗ったり、ハンドクリームなどで対応した。今年度は糖尿病で転倒後の外傷から治りにくく、皮膚科受診し軟膏処置を1日に2回行った。現在も続いている。
 - 入浴介助は夏場週に3回、冬場2回実施し、身体の保清につとめた。疾患や高齢化で介助を要する利用者も増えている。入院も多かった為、退院後入浴介助を必要とした。現在9名の入浴介助を行っている。
 - 歯科往診では、診察治療に加え、検診を行ってもらい、必要な利用者には口腔内清掃、う歯の治療、ブラッシング指導を行ってもらった。また、初めて歯科治療を行った利用者もおり、医師と家族と連携を取り、ブラッシングからはじめてもらった。現在も続けている。抜歯や義歯の作成などの時には歯科医より直接家族に連絡をもらい、許可をとってもらおうようにしている。
- 又、ブラッシングが上手く出来ない利用者に対し、介助が必要な利

用者に対しては今後の課題である。

- 糖尿病で、眼が良く見えなくなり自己測定や注射を行うことが困難になってきた為、主治医に相談し、測定に関してはグルコースモニターシステムを腕に装着してもらい、センサーをかざすだけで測定ができるようになった。2週間に1回交換を施設で行っている。注射に関しては看護師不在時は日直と本人確認で一部介助や見守りを行っている。

2. 定期健康診断

- 入所者、夜勤者は1年に2回（田崎医院）の定期健康診断の実施を行った。
- パート・通所者・グループホーム世話人は年に1回（田崎医院）にて定期の健康診断を行った。
- 35歳以上の職員は協会健保の健康診断を行った。
- 異常が認められた利用者は再検査を実施した。定期通院している利用者は各病院にて状況を報告しフォローしてもらっている。
- 異常所見のある職員に関しては受診を促し、必要な検査を受けてもらっている。
- また子宮頸がん、乳がん検診に関しては指定の年齢で受けしてもらった。

3. 感染症等の予防対策

- 今年度のインフルエンザの発生はなかった。インフルエンザワクチンは73名摂取した。
- ノロウイルスの発生はなかった。すぐに対応できるように、1棟に対して、バケツに必要物品をセットし設置している。
- 感染症注意報、警報は都度職員及び利用者に伝え、又手洗い場には眼でも分かるように、手洗いやうがいの方法をイラストで貼り、マスクの着用を促した。又コロナウイルス感染拡大予防として、外出時、帰ったときの手洗いやうがいは朝礼や昼礼で伝えたが、個別にも行った。
- 新型コロナウイルス感染症対策では、通達に従い感染源の拡大を防止、早期発見するうえで、入所者は毎日の体温測定を行い、通所者には自宅で測定してもらい、記録してもらった。県や市からの通達に関しては都度、連絡帳や手紙で家族に知らせ、自治会などで利用者には伝えた。外出の自粛や面会制限、又来訪者には、手の消毒、体

温測定、マスク着用などの対策を行い、記録としてチェックシートを作成し残すようにした。

施設内で療養となった場合を考え、2階の2部屋を仕切るためのビニールカーテンを設置し、防護服着脱の為の場所にもビニールカーテンを設置した。衛生用品として、キャップ、ゴーグル、フェイスシールド、手袋、マスク、ガウン、石鹸やハンドソープを備蓄した。

個室で管理するためポータブルトイレを購入した。

ゾーニング検討に関しては市や県に指導を受けたいと思っている。

- 通所者・職員には自宅での体温測定を行ってもらい、37.5℃以上の発熱が認められた場合や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触した時など通所をお断りする必要がある事を文書で連絡を行った。職員にも朝礼で伝え記録も残すようにした。

また、やむを得ず県外の往来（本人、家族など）があった時は、抗原検査やPCR検査を行ってもらった。入所者で発熱があった時は、受診をして検査をしていただいた。

新型コロナウイルス感染症は無く、~~も~~回目のワクチン接種は74名であった。

4. 転倒・転落予防

- 起床時、車椅子に移乗しようとして転落される。車いす自操の方で自力で歩行して転倒される。車いすのブレーキをかけず床の物を取ろうとして転落される。他はベッドから車いす、車いすからベッドに移乗時転落されることがあり、見守りや一部介助で行う為に、コール指導や、危険防止のため帽子着用を指導した。歩行が不安定で転倒される方には頭部を守るために本人とも話し合い、保護帽子を勧め購入した。又、PTに相談し、①車椅子への移行、歩行器の移行を勧める。②筋力低下にならないようにリハビリを行う。③利用者が集まる時間帯は職員が側に居る、ブレーキのかけ忘れは職員全体で声かけを行うなどの対策を行った。起床時は起きる前に少し体操を行うなどをして移乗を行うなど指導した。

又就労継続支援B型の利用者でも、歩行不安定な利用者にはPTに相談し、生活介護利用者が行っているリハビリの時間に、1時間程度来てもらいリハビリを行う。自室でもできるようにと指導を受けた。

現在2名の利用者にリハビリを行っている。自室でも行うようにイラストで説明し部屋に貼り出している。

- 生活介護では、利用者の高齢化、病状の進行、歩行不安定者が多くなり、限られた時間内に全員のリハビリができなくなり、令和1年

6月から毎月2回リハビリ指導を受けることとなったが、新型コロナウイルス感染拡大予防の為、外部からの指導が困難となり、PTに相談しながら、以前受けたリハビリメニューで、筋力低下にならないようにしている。現在はリハビリする日数を増やすために1人週2回ずつ、午前と午後に分けて1時間ずつ行っている。又、嚥下障害がある利用者には、お口の体操など行い、栄養士と連携を取り汁物にはトロミをつけている。現在3名の利用者に行っている。

5. 居室衛生管理について

- 定期的に職員による居室チェックを行うとともに、居室の掃除を利用者に随時声掛け指導、手を貸しながらの指導をおこなった。又、居室替え時に利用者の承諾をもとに不用品の処分、環境整備を行い、避難経路の確保をおこなった。季節ごとの衣替えも声掛けが必要だった。
- 夏期にゴキブリ駆除を実施した。
- 冷蔵庫は氏名、日にちを記載して長く入れない、不要な物は入れないように声掛けを行った。

6. 入院及び通院状況

R3 年度入院記録

年齢性別	病名	入院日数
55才男性	精神	347
63才男性	肺炎	65
68才女性	骨折	59
56才男性	精神	46
68才女性	精神、転倒	40日、以後退所
72才男性	大腿部切断(入院中)	365

<各科の受診疾患名>

内科（内分泌・消化器内科、神経内科含む）・風邪、高血圧、体調不良、糖尿病、脳血管疾患後遺症、てんかん、脊髄小脳変性症、筋無力症、健康診断再検査など。

外科（脳血管外科、心臓外科、脳神経内科・外科含む）・静脈瘤、心臓人工弁術後、てんかん、脳梗塞、脳出血後のフォロー、など。

リウマチ科・リウマチ。

精神科・統合失調症 双極性障害、てんかん、妄想、適応障害、心因性など

整形外科・腰痛、関節痛、五十肩、骨折後のフォローなど

耳鼻科・副鼻腔炎、花粉症、耳の炎症など。

眼科・・・ドライアイ、アレルギー、白内障、網膜色素変性症。

皮膚科・・・白癬、湿疹、しもやけ、脂漏性湿疹。

循環器科・・・心不全、狭心症術後、高血圧など

歯科：う歯、歯肉炎、入れ歯調整、入れ歯作成など。

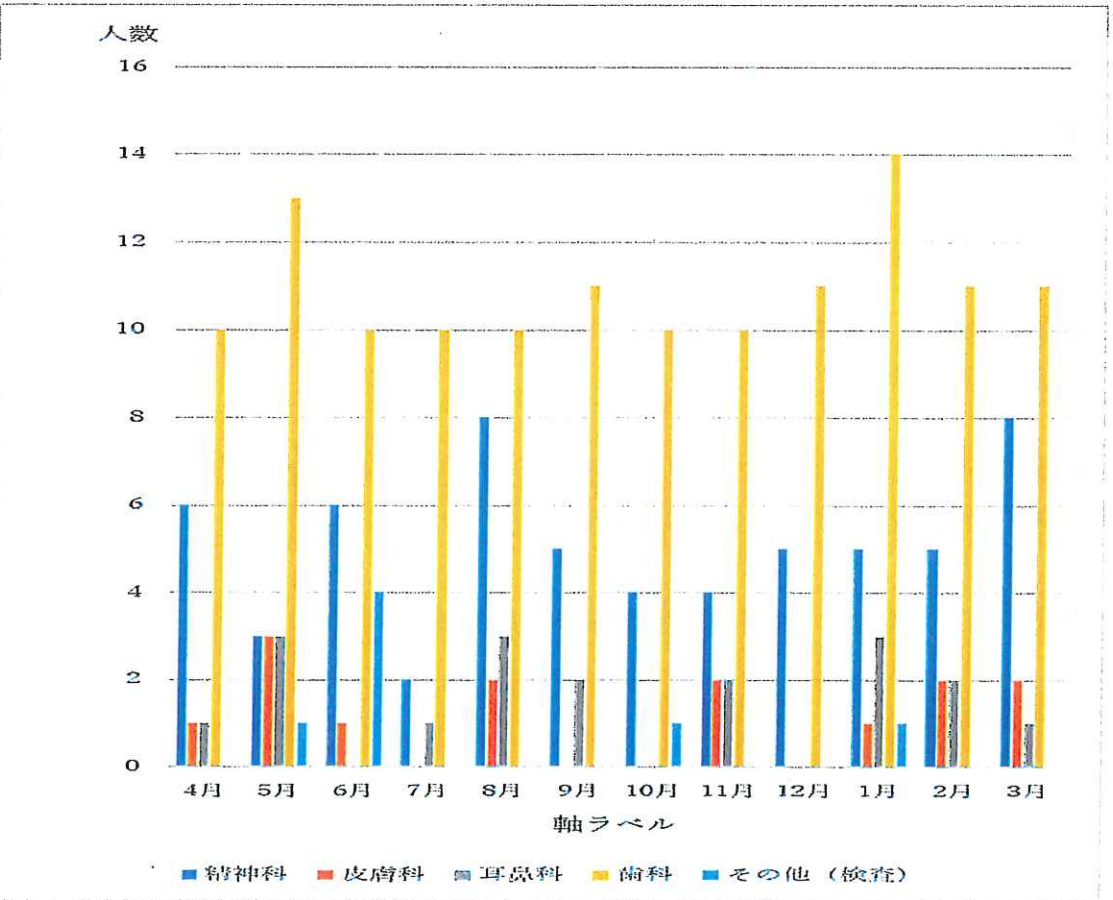
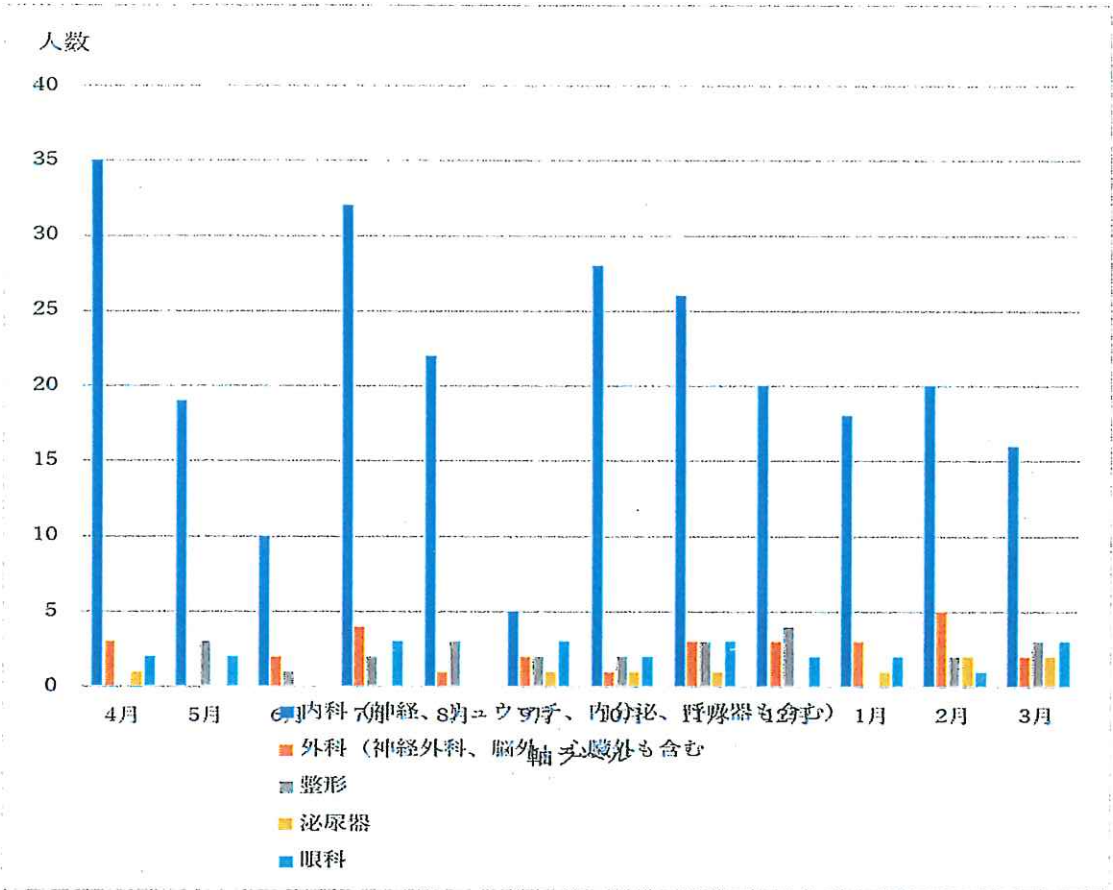
その他：診断書に伴う、受診を行った。

<通院>

利用者の高齢化や難病の進行に伴い、症状も重症化するものが増えてきている。症状によっては予約以外に受診を行う事も多くなった。

<月別通院状況>

通院科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科（神経、リュウマチ、内分泌、呼吸器も含む）	35	19	10	32	22	5	28	26	20	18	20	16	251
外科（神経外科、脳外、心臓外も含む）	3	0	2	4	1	2	1	3	3	3	5	2	29
整形	0	3	1	2	3	2	2	3	4	0	2	3	29
泌尿器	1	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2	2	9
眼科	2	2	0	3	0	3	2	3	2	2	1	3	23
精神科	6	3	6	2	8	5	4	4	5	5	5	8	61
皮膚科	1	3	1	0	2	0	0	2	0	1	2	2	14
耳鼻科	1	3	0	1	3	2	0	2	0	3	2	1	18
歯科	10	13	10	10	10	11	10	10	11	14	11	11	131
その他（検査）	0	1	4	0	0	0	1	0	0	1	0	0	7
	59	47	34	54	49	31	49	54	45	48	50	35	605



【給食部門】

1. (食中毒の予防) 食中毒や感染症予防対策として、調理従事者の健康管理や、調理場の温度・湿度管理の徹底を行った。また、食品の適切な加熱・温度管理を行い、食中毒を防止することで安心・安全な食事を提供することができた。
2. (三彩の里 クリスマス会・忘年会) 12/17 実施
新館食堂でクリスマス会・忘年会を実施した。
シーフードピザ、かにグラタン、チューリップチキン、パンプキンスープ、Xmas ケーキを準備し、食事を提供した。
3. (行事食の提供)
お花見、土用丑の日、七夕、秋メニュー、ハロウィン、クリスマス餅つき、おせち料理、鏡開き、還暦・成人の祝い、節分、バレンタインひな祭りの行事食の提供を行った。
4. (防災の日 レトルトパン・フルーツ缶・スープ・備蓄水) 9/1 実施
防災の日に非常食を喫食し、防災について考える機会作りを設けた。
災害訓練によりその対応の周知徹底を行い、災害の発生に備えることができた。
5. ●毎週水曜日 パン食・・・昼食でパンに合うメニューを考えながら献立作成を行った。飽きがこないように、菓子パンから調理パンまで様々なパンを取り入れることができた。

●毎週金曜日 麺食・・・麺類が好きな利用者が多いので、毎週金曜日は麺類を提供している。

●選択食の実施・・・パンの選択食を行い、変化のある献立に努めることができた。選ぶ楽しさを知り、利用者の満足度の向上にもつなげることができた。

●治療食の提供・・・糖尿食、減塩食の治療食を提供している。
6. (給食会議) R3 年度 12 回実施
参加者：施設長、栄養士、調理員
よりよい食事提供のために毎月 1 回会議を開き、翌月の行事、衛生管理、メニュー等課題を取り上げて検討し、日常的な情報交換・共有の徹底を行った。

令和3年度 施設入所支援事業報告

1.生活支援について

①個別支援サービスの充実

※個別支援サービスの充実について、利用者個々に対し必要に応じてアセスメントを行いサービス管理責任者が主体にケア会議を開き利用者個々のニーズや希望に応じた支援計画書の作成し計画書に沿った支援を実施した。

個別支援計画書の支援期間は6ヶ月とし見直しを行った。

②相談支援について

※相談支援について、必要に応じて個別面談を実施し、生活状況の把握に努めた。また、計画相談支援事業所と連携し、迅速な対応に努めた。

2.介護支援について

※利用者の身体状況の変化等に応じ、サービス管理責任者を主体にケア会議を開き個別に応じた入浴や排泄などの介護支援に努めた。

建替え工事により通常とは異なる環境でのストレスなど特に注意して支援を実施。

3.非常災害及び施設整備について

火災・夜間想定の避難訓練を実施した。

4.虐待対策について

①虐待対策・防止について朝礼や職員会議を利用し施設内研修を実施した。

②利用者とのコミュニケーションに努め、相互に理解を深めるよう努めた。

③常に利用者及び家族からの苦情・要望等を傾聴し速やかに対応した。

5.苦情解決について

令和2年度の苦情受付においては、2例あったが解決済みとなっている。

6.感染症等の予防対策について

新型コロナウイルス感染症対策では、国や県の通達に従い、感染源の拡大を防止するうえで、外出・外泊の自粛や面会制限、又来訪者には、手指の消毒・検温・マスク着用・チェックリスト等の対策を行ない協力して頂いた。

7.施設入所者数の現員及び入退所者数について

・令和3年4月～令和4年3月の施設入所者数

令和3年4月末日現在 定員50名 現員36名。

令和4年3月末日現在 定員50名 現員37名。

・令和3年4月～令和4年3月の入退所者数

入所者数 3名、退所者数 2名。

・入所者の3名に関しては、1名はGHでの生活が困難となった事から、施設入所支援へ切り替え、もう2名は高等部卒業後に施設入所支援となっています。退所者の2名に関しては、身体レベルの重度化に伴い、高齢者施設・病院へ移行となり、退所されました。

令和3年度 就労継続支援B型事業報告

令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大により販売会の中止や自粛など厳しい状況が続き、引き続きテイクアウトやお弁当販売、注文納品の拡大を行い売り上げ回復に努めた。

また、前年度は新型コロナウイルスにより陶器まつりが中止となったが、今年度は規模縮小と感染症対策を徹底して5月に陶器フェアを実施。併せてイベント内容を見直し、陶器を中心にして販売を行うようにした。

利用者支援においては、個別支援計画書に沿った指導・支援を行い、また、相談支援事業所を中心として外部意見を積極的に取り入れ、より利用者に寄り添った支援方法を模索・実施した。

【個別支援計画に沿った支援の充実】

各利用者の個別支援計画に基づいて、定期的に相談支援事業所も含めた会議を持ち、計画に沿った的確な支援を行えるよう努めた。モニタリングやサービス担当者会議の実施、また支援日誌や朝礼日誌の情報を職員で共有し、全職員が共通して利用者の生活面や健康面、作業中の問題などに対して認識し、支援が出来るよう努めた。

【工賃向上計画について】

事業所総支給額	8,250,009円
対象のべ人数	339人
平均工賃額	24,337円（月額） 218.4円（時給）

※R2年度全国平均工賃 15,776円/長崎県平均工賃 17,981円/大村市平均工賃

[陶芸課]	2,176,702円（工賃支給額）
平均	20,155円
利用者延べ人数	108名

[食品加工課]	1,359,988円（工賃支給額）
平均	22,295円
利用者延べ人数	61名

[軽作業課]	4,713,319円（工賃支給額）
平均	27,725円
利用者延べ人数	170名

【各課別事業報告について】

〔陶芸課〕

R3年度は、8月16日に東京2020パラリンピック聖火フェスティバル大村市採火式が三彩の里で実施された。施設にある登り窯から大村市の聖火の火を三彩の里から灯す貴重な経験ができた。大村市長様はじめ各行政関係の方や市内の福祉事業所も参加して頂き、登り窯へ入れる薪にも願い事を書いていただき、その願いと共に聖火の火として灯していただきました。利用者にとってもすごく貴重な経験となり、よい思い出となったと思われる。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、イベント販売は対策を行いながら実施。陶芸教室では、学童や保育園などの予約が多かったが、未だに団体での予約は少ない状況である。また、予約サイト等から一般客が陶芸教室を利用していただく機会が増え、学校行事として学校側へ出張陶芸教室を行い、また、修学旅行の一部として支援学校が利用して頂く機会があった。

商品の製造では、製造計画を立てるが計画内容が不十分または、計画倒れになってしまう事が多く、商品がイベントに間に合わないことや販売時期ギリギリまで製造を行った結果、営業活動まで行えず、売上へつなげることが出来なかった。

既存の委託先では、時季や客層・その場所ごとで商品やディスプレイを都度変更し、売り上げ向上に繋げた。コロナウィルスの影響は未だにあり、特に観光地の売り上げは減少しているが下半期頃から観光客も増え少しずつ売上にも繋がってきた。

利用者支援については、利用者の高齢化に伴い、作業や生活面の支援が年々増えてきている中で利用者の性格や特性などに合わせて作業内容や作業環境なども検討・実施しながら支援を行った。

〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行 事 内 容	項 目	利用者延べ人数
5	2	日	陶器フェア (4日間)	販売	36名
5	7・21	金	出張陶芸教室	講習	0名
6	4・18	金	出張陶芸教室	講習	0名
6	27	日	ハートパルまつり	販売	0名
7	2	金	出張陶芸教室	講習	0名
7	13	火	出張陶芸教室	講習	2名
7	17	土	出張陶芸教室	講習	0名
8	3~9	火~月	おおむら市民ギャラリー	販売	6名
10	18	月	外出支援 (波佐見町)	見学	10名
11	14	日	大村市農福連携マルシェ	販売	0名
3	19	土	イオン大村パンプーク	販売	0名

※その他、ふれあい観光通り、長崎県庁、オレンジクローバー等に定期的に出店している

※コロナ禍の為、利用者の方は出店に引率しませんでした

[食品加工課 パン工房ボンヌ]

R3年度は、新型コロナウイルス感染拡大により厳しい状況が続いていたが、感染症対策を徹底しながら、徐々に販売回数を増やした。また、並行して幼稚園等の受注納品先を増やし販路を拡大。コロナ前には及ばないものの一部取引先を除き R2年度より売上は回復している。他、SNSを積極的に活用し、新商品やイベント案内等の情報発信を行った。

一方で原材料高騰が続き現行の価格での販売が困難になった為、R4年度から新価格で対応するよう準備を行った。その他、利用者指導では、個別支援計画書に沿った指導・支援を行い製造技術向上に繋げた。

〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行 事 内 容	項 目	利用者延べ人数
5	2	日	陶器フェア (4日間)	販売	12名
6	27	日	ハートパルまつり	販売	0名
11	14	日	大村市農福連携マルシェ	販売	0名
3	19	土	イオン大村パンパーク	販売	0名

※その他、ふれあい観光通り、長崎県庁、オレンジクローバー等に定期的に出店しました
 ※新型コロナ感染拡大により感染防止を理由に利用者の方は出店に引率していない

【カフェボンヌ】

R3年度も新型コロナウイルス感染が増え続けていく状況が続き、今年もカフェでのイベントは厳しく店内の客数も減り売り上げが減少した。対策として、大村市事業継続支援給付金の活用やプラットおおむらのお弁当販売を継続し、売上維持・向上に努めた。カフェの営業では、ながさきコロナ対策飲食店認証の許可を取り、感染予防の備品を購入。感染予防の強化を行い、カフェの季節のランチと一緒に感染症対策を行っていることも SNS 等で積極的にアピールした。また、原材料価格の高騰が続き R4年度から新価格で対応する準備を行った。

〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行 事 内 容	項 目	利用者延べ人数
5	2	日	陶器フェア (4日間)	販売	0名
6	27	日	ハートパルまつり 販売	販売	0名
5~1			オレンジクローバー (市役所)	販売	0名
11	14	日	農福マルシェ (コレモ広場)	販売	0名

※毎週1回、プラットおおむらの販売に行った
 ※新型コロナ感染拡大により感染防止を理由に利用者の方は出店に引率していない

[軽食ターンマーク]

R3年度も引き続き新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら食堂の営業を行った。全国的に「唐揚げ」が流行っており、自店でも手作りの唐揚げをメニューに導入し、テイクアウトも定着しお客様に喜んで頂けた。売り上げについては、営業開始して四年になる

が、年間最高売上 500 万円を超える事が出来た。作業面では、忙しい時間帯に下膳と机の消毒が遅れがちだったが、食器返却棚を設置して一部をセルフ化することにより下膳の負担が減り効率化に繋がった。また、今年度は利用者 1 名の工賃が工賃ランク G（時給 1 6 0 円）から工賃ランク F（時給 2 1 0 円）に向上した。

[軽作業課]

施設内での作業は県央大村青果（株）からの野菜受託加工作業（野菜の計量、結束、箱詰め作業等）を中心に行った。施設外での作業は、中心市街地複合ビル共用スペース清掃業務、ハイテク記念公園の清掃業務、共同受注センターの業務委託作業を行った。清掃作業では、利用者の清掃技術が向上できるように支援、指導を行い、少し時間がかかっても丁寧に清掃を行い、コロナ感染防止の為、人の手が触れることが多い箇所には特に気がけて清掃を行ない、複合ビルを利用されるお客様や職員の方が安心して過ごせる場になるよう努めた。例年 1 0 月から行っている複合ビル全フロアの共用スペースのワックス清掃や、今年度は大村市医師会様から事務所を中心としたワックス清掃等の清掃依頼を頂いた。今までの特別清掃は会議室等を中心に行ってきたことから、今回の清掃はとても良い経験をさせて頂き、実績も残すことができた。

(施設外作業別の回数と出席回数)

ハイテク記念公園清掃	清掃回数	月 1 0 回	年 1 2 0 回	参加利用者数	6 名
	内容	駐車場・広場の掃き清掃、公衆トイレ清掃、月 1 回の除草作業			
中心市街地複合ビル清掃		月曜から金曜（平日の祝日も含む）			
		1 2 月 3 1 日と 1 月 1 日を除く年 2 6 1 回			
		参加利用者数 6 名			
	内容	1 階 玄関、エントランス、ロビー、廊下、給湯室、階段 喫煙所			
		2 階 廊下、給湯室、階段			
		5 階 廊下、給湯室、階段、会議室、和室			
		6 階 廊下、給湯室、階段、会議室、和室、娯楽室			
		特別清掃（ワックスがけ）1 0 月～1 2 月			
大村市医師会清掃	内容	医師会事務所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所 在宅医療サポートセンターの特別清掃（ワックスがけ）等			
		参加利用者 3 名			
除草作業（新幹線関係等）		5 月～1 1 月頃までの依頼時			
		参加利用者 3 名			

【生活支援について】

R3年度も利用者の居室管理を生活支援員と利用者自身にもチェックをしてもらい、整理整頓に対する意識の向上を図った。また、新型コロナ感染拡大により施設入所利用者が外出禁止になった際は、各課で感染対策を徹底して外出を実施した。

〈年間行事報告〉

月	日	曜日	行 事 内 容	項 目	利用者人数
6	5	土	野岳湖外出支援	行事	14
6	17	木	森園公園外出支援	行事	14
7	21	水	納涼祭	行事	30
10	2	土	大村公園散策支援	行事	4
10	18	月	波佐見陶器見学	見学	8
10	22	金	野岳湖外出支援	行事	15
12	17	金	利用者忘年会	行事	30

※各月カフェにて利用者誕生日会を実施

【保健衛生面について】

新型コロナウイルス感染拡大する中、施設内にウイルスを持ち込まないことを徹底。感染状況によっては外部との面会禁止等を実施した。

また、利用者へのマスクの着用の励行や手指消毒の指導、毎日の検温を徹底し感染防止対策を行った。

【給食について】

また、毎月給食会議を実施し食事面の問題点などの検討を行い、全体への報告を行った。掲示板などを使い食事に関する栄養や健康面などの情報提供も行った。

令和3年度 共同生活援助『カサロッサ・ぱぴるす』事業報告

1. サービス内容について

食事の準備や居室清掃など専属の世話人のもと家庭的な雰囲気でも過ごすことができた。食事については、利用者のリクエストや身体の状態、食事メニューを考えサービスの実施を行い、利用者の喜びにも繋がるようにし、利用者間の交流・親睦を深めた。また、通院時の送迎・買い物等も必要に応じ実施した。

2. 行事について

施設行事等（陶器フェア・利用者忘年会）に参加し施設利用者とはもちろん、地域との交流については、清掃活動等に参加する事ができた。

3. 職員研修について

施設内では、利用者への支援のあり方についての内部研修や管理者を交え世話人と生活面等については、サービスのあり方等を月に一回のペースで会議を実施した。施設外の研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により、主にWEBにて研修会へ参加した。

4. 緊急時等における対応

3年度中は、大きな問題なく過ごされ、体調の急変などみられなかったため緊急対応する事はなかった。今後も、体調の急変や緊急事態が生じた場合は、速やかに管理者に報告すると共に主治医に連絡をする。

5. 災害対策について(火災・自然災害)

施設で実施される避難訓練には、施設の利用者と共に GH 利用者も参加した。また、自然災害に対する備えや意識づけを世話人、利用者と共に図った。

6. 虐待対策について

普段、世話人との電話連絡をとっているが、GHを訪問した際に各居室を伺い、何か変化等がないかの確認や利用者とのコミュニケーションを図り、虐待防止を未然に防ぐよう努めた。

7. 苦情解決について

苦情解決については、利用者や世話人から GH の生活について聞き取り等を行い、GH にも苦情解決の対応について掲示を行なっている。利用者間での問題はあったが、その都度の聞き取りを行い、早期解決に努めた。大きなトラブルもなく、仲良く生活を送ることが出来た。また、GH 専属の世話人のもと食事など家庭的な雰囲気の中、生活が出来た。

※現在、カサロッサは利用者の方はいないが、ぱぴるすへは新規で高等部卒業生が、3月から利用をしている。その為、令和4年3月より、ぱぴるすは4名体制となり内3名は、三彩の里の就労継続支援B型を利用され、1名は一般就労されている（カサロッサは現在休止中となっている）。